

「平成30年度 文京区子育て支援に関するニーズ調査報告書～概要版～」について

概要版の主な内容は、次のとおりである。

*以下の表記は、「就学前」＝就学前児童保護者、「小学生」＝小学生保護者、「中学生」＝中学生保護者、「中学生本人」、「高校生世代」＝高校生世代本人とする。

*頁は、概要版の頁及び項番である。

1 家族構成

おおむね、前回同様の傾向である。

(1) 子どもの数、末子の年齢 (1. 基本属性、2頁(2)、3頁(3))

・年齢があがるほど、増えている。

| 対象 | 1番目 | 2番目 | 3番目 | 末子の年齢(最多) |
|-----|-----|-----|-----|-----------|
| 就学前 | 1人 | 2人 | 3人 | 0歳/前回1歳 |
| 小学生 | 2人 | 1人 | 3人 | 5歳/前回7歳 |
| 中学生 | 2人 | 1人 | 3人※ | |

※中学生の3人以上(=3人+4人以上)は22.5%である(1人は20.0%)。

(2) 希望する数 (12. 子育てのイメージ/不安・悩みについて、31頁(10)①②)

・就学前、小学生とも、同じ傾向である。

希望する子どもの人数 2人→3人→1人

実際に持つことができる子どもの人数 2人→1人→3人

・希望する人数より少ない最大の理由は、保護者の年齢と経済面が上位である。

| 対象 | 1位 | 2位 | 3位 |
|-----|--------------|--------------|--------------|
| 就学前 | 育児の経済的負担が大きい | 年齢的な理由で難しい | 将来の教育費の負担が不安 |
| 小学生 | 年齢的な理由で難しい | 将来の教育費の負担が不安 | 育児の経済的負担が大きい |

2 就労状況および育児休業制度

(1) 母親の就労状況 (3. 保護者の就労状況、8頁(5)①)

小学生が少なくなる傾向は変わらないが、就学前のフルタイム就労(休業中含む)が増えている。

| 対象 | 今回 | 前回 |
|-----|------|------|
| 就学前 | 5割半ば | 4割強 |
| 小学生 | 3割半ば | 3割半ば |

(2) 育児休暇の取得状況および職場復帰状況

(4. 育児休業制度について、10 頁 (1)①、11 頁(3))

父親の育休取得は1割未満と少ないが、前回より僅かながら改善傾向にある。

母親は5割を超えており、フルタイム就労が増加した影響が出ていると思われる。

| 質問 | | 父親 | 母親 |
|----------|----------|----------------|----------------|
| 取得 経験 | 取得した | 6.4% 前回 2.4% | 56.3% 前回 41.7% |
| | 取得していない | 87.2% 前回 92.8% | 10.3% 前回 14.5% |
| | 働いていなかった | 0.6% 前回 0.2% | 30.9% 前回 43.2% |
| 職場 復帰 | 復帰 | 89.5% 前回 90.9% | 76.6% 前回 68.2% |
| | 育休中 | 3.5% 前回 4.5% | 16.4% 前回 24.1% |
| | 離職 | 1.8% 前回 0.0% | 6.1% 前回 6.7% |

(3) 育休を取得していない理由 (4. 育児休業制度について、10 頁(1)②)

父親は、前回と同様の傾向だった。

母親は、回答傾向は似ているものの、退職の割合が前回より半減している。

| 対象 | 1 位 | 2 位 |
|----|--------------------------------|---|
| 父親 | ・仕事が忙しかった | ・育休を取りにくい雰囲気 ・配偶者が取得した |
| 母親 | ・退職した ※前回 45.6% 今回 22.8% | ・仕事が忙しかった ・経済的に苦しくなる ・育休制度がなかった ・早く復帰したかった |

3 不安・悩み

(1) 子育ての楽しさ・辛さ (12. 子育てのイメージ/不安・悩みについて、24 頁(1))

楽しいと感じることが多い人が6～7割等、前回傾向と大きな変化はみられなかった。

(2) ダブルケアおよびヤングケアラー

(12. 子育てのイメージ/不安・悩みについて、24 頁(2)、27 頁(5))

いずれも1割未満の数値であり、全体調査よりも個別対応の必要性がうかがえた。

- ・保護者「子育てと介護が同時に発生」 就学前 3.3%、小学生 6.1%、中学生 9.7%
- ・本人「日常的な介護」 中学生本人 0.0%、高校生世代 0.0%
- 「日常的な子育て」 中学生本人 0.3%、高校生世代 0.5%

(3) 性別/12. 子育てのイメージ、24 頁(2)、27 頁(5)

数値は小さいものの、保護者と本人に違いが見受けられる。

- ・保護者 中学生 0.0%
- ・本人 中学生本人 2.5%、高校生世代 1.8%

- (4) 経済状況 (12. 子育てのイメージ/不安・悩みについて、27 頁(5))
数値は 1 割未満だが、中学生本人よりも高校生世代が多くなっている。
・本 人 中学生本人 5.1%、高校生世代 8.7%

4 経済困窮 (はく奪指標)

- (1) 体験 (13. 体験や経済的にできないこと・ないことについて、32 頁 (1))
体験がないうち、金銭的な理由は、いずれも 3% 未満だった。

- (2) 経済的にできないこと
(13. 体験や経済的にできないこと・ないことについて、33 頁(2))
家庭においてしていないもののうち、経済的な理由は、いずれも 10% 未満だった。

5 学校に行きたくないと思ったこと

(20. 現在の就学・就労の状況、通学状況、進路に対する考え、困りごと、48 頁(1)(2))
高校生世代の約 4 割が思ったことがあるが、そのうち「特に理由なし」が一番多かった。
その次の理由としては「その他」が多く、選択肢にない様々な理由を抱えていることがうかがえる結果となった。

6 満足度 (49 頁)

いずれも、おおむね良好な結果が得られた。

- ・満足度 1・2 (=低) 2 割弱
- ・満足度 3 (=普) 4 割弱
- ・満足度 4・5 (=高) 4 割強